

JCWA

NEWSLETTER

Vol.03

日本カーラッピング協会 会報誌

[JCWAニュースレター]

2025年4月発行

発行/編集制作 一般社団法人日本カーラッピング協会 広報部

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-2-1 喜助内神田3丁目ビル402号 FAX: 03-6206-4986



全国を行脚した
講習会の新展望

Wrapping Film
Paint Protection Film
Window Protection Film
COLOR PPF

C O N T E N T S

[特集] JCWA講習会のこれまでと今後

◎新たな局面へ ラッピング/PPF/WPF

◎第1回開催 カラーPPF

▶ [特別コラム] 競技会上位ショップはこうフィルムを選ぶ

▶ [NEW&売れ筋!] 注目のプロツール

▶ [新会員情報] 6社の寄稿コメント

▶ [理事からのメッセージ] #4 鈴木敦・PPF部会長

#5 林田優希・WPF部会長

▶ [イベントレポート] World Wrap Masters MIDDLE EAST2025
国際オートアフターマーケットEXPO2025

[JCWA講習会 軌跡と展望]

アップデートしながら 全国を周った 7年間

TEXT&PHOTO:
JCWA広報委員会/
WRP・PPF・WPF各部長

より多くの地域開催を目指し 確立した1都市3コース

JCWAでは2月8～10日の3日間、香川県高松市にてカーラッピング(WRP)、ペイントプロテクションフィルム(PPF)、ウインドウプロテクションフィルム(WPF)の3コースの講習を開催しました。コロナ禍後、活動を本格的に再始動した22年から2コース同一会場で、23年からは現在の3コース同一会場での形式に移行。運営の移動・費用負担を減らせるこの1都市3コース形式では、北海道、広島、今回の四国と、単一講習では難しかった様々な地方部に遠征。これまでの累計講習は10都市・22回に上り、各回10～20人の参加、平均15人参加とした単純計算では延べ約330人の事業者フィルム施工を発信してきたこととなります。

受講者にとっても、複数のフィルム施工を一度の機会ですべて学べたJCWA講習。またいずれのコースともに幅広いフィルムメーカー・販売店に協力を仰ぎ、メーカー横断型としているのも特徴の1つです。受講者の全てではないにしても、講習をきっかけに幅広いフィルム施工の事業発足・強化、幅広いフィルムブランドの取り扱いなどに繋がったという声も届いており、ひいては日本各地でのフィルム施工の技術・事業の普及に一定の貢献をできた、とこれまでの講習事業の成果を捉えています。



市場動向踏まえた変革へ WRP は引き続き玄関の役割を

一方で、2018年に第1回カーラッピング講習会を開催して以降、時代の移ろいやビジネス・業界動向の変化、巡った全国各地の実態や受講者の声を受け、運営する各部会としても講習会のさらなるアップデートが求められていると感じています。

その代表が WRP です。協会名にその名を冠し、7年前の活動開始から講習会・競技会ともに活動の軸軸でしたが、市場成長著しい他部会と比べると一種の“逆風”に

さらされていると言えるかもしれません。年々、講習会を重ねるごとに、受講者の応募の勢いはややゆるやかに、受講後の事業継続割合が決して高くないことも、WRP のビジネスや技能育成を取り巻く課題の1つに浮かび上がってきています。

一方で、ビジネスとしての市場、またその潜在成長性は決して小さくありません。カラーチェンジでもフリートマーキングでも、安価でデザイン性の高い塩化ビニルフィルム活用への期待は今なお根強くあります。特にディーラーや大型イベントなどの法人需要は大きく、一方で施工者不足が

それを取り逃している側面があります。

この実情を踏まえ、協会では引き続き施工者育成に取り組みつつ、より事業継続に繋がる指南や、フリート関連の技能講習なども検討しています。また、カラーチェンジの新素材カラー PPF の新部会も発足(→P4 参照)したので、その連携も図っていきます。なにより WRP は、自動車フィルム施工業の基幹技能の1つ。協会の収益性だけではなく、文化としての成熟を促す公共性の観点からも、協会という立場では引き続き、「WRP への入り口」の役割を担う講習も継続していく方針です。



日本の主要四島最後となった四国・香川県での3コース講習会



市場広がるプロテクション系 より“深度”を目指し…

WRP の傍、需要も手掛ける施工事業者もこの7年間で急成長を遂げたのがプロテクション関連です。中でも PPF はその筆頭サービスとして、ラッピングや看板系からコーティング関連、異業種まで幅広い事業者が参画し、裾野が広がるとともに競争環境も激しくなっています。

それに伴い、業界全体で懸念されるのが品質の担保です。実際、実務上で「この仕上がりで納車されているのか」という品質も散見されます。もちろん、協会は各施工

事業者のサービス品質を監査する立場ではありませんが、粗悪な品質が顧客の不満、ひいては業界への不信に繋がりがねないことを考えると、業界団体として無視できるものではありません。その中で、PPF では「入り口」としてだけではなく、「向上」を図る窓口として、中級者向けの技術講習や情報交換の機会などを模索しています。

一方で WPF は、PPF と同じく成長分野。ただ、単体で事業化しにくいサービスであることや、熱成形を伴う施工難度の高さなどを一因に、PPF 事業者の付加サービスに留まるなど、参画事業者やその技能育成に一部課題を残す実態も見受けられます。

その中で近年では製品も、透明度に優れた PET 型のほか、熱成形不要の TPU 型、両者の中間的な EPU 型など多様化が進行。技能レベルと製品に合わせたサービス展開が可能となってきています。

今後は、こうした製品タイプ・技能レベルを踏まえた講習を通じ、PPF 事業者だけでなく WRP やカーフィルム事業者などより広範な業種を対象とした施工者育成を促すとともに、これは WPF だけではなく、講習のカリキュラム・テキストを整備し、より受講内容が明瞭となるアップデートを図っていく方針です。

(関連: PPF / WPF 部会長挨拶→P8)

第1回カラーPPF講習 @ 東京

24年12月、東京・墨田区のLAPPS (ワイエムジーワン) で第1回カラーPPF講習を開催。

全国から初心者・熟練者問わず多くの施工者が集まり、新素材への関心の高さを物語っていました。

TEXT&PHOTO: JCWA広報委員会／カラーPPF部会長

幅広い受講者が注目の新素材 早くも4月に第2回を開催

国際的なラッピング技能競技会 World Wrap Masters JAPAN 2024 でも競技種目に採用されたように、カラーチェンジの世界的な潮流となってきたカラーPPF。着色されたTPUで、WRPのカラーチェンジとPPFの塗装保護を一度に実現できる新素材です。協会では24年度、新たにこのカラーPPF専門の部会を発足。井上徳広理事が部会長を務め、12月に第1回講習を開催しました。

カラーPPF自体は、2010年代終盤に出始めましたが、ここ数年は製造・販売メーカーが一挙に増え、流通する製品も多様化しています。メーカー横断型のJCWA講

習はカラーPPFでも同様で、第1回では全6メーカーを教材に採用。それぞれの特性プレゼンから、実際に各社のフィルムを使用した実演、施工体験と、1日ながら濃密なカリキュラムとなりました。

厚みのあるTPUならではの優れた質感・手触りを評価する声が多く挙った講習会場。また、ドライ／ウェット／兼用と接着タイプがメーカー・製品ごとに多彩なものも現在のカラーPPFの特徴で、それぞれの適切な扱い方を熱心に聞く受講者の姿も。加えて教材提供メーカーのNKODA (NKD JAPAN) フィルムをフル施工したデモ車も持ち込まれ、R部やパネル端の処理、貼り合わせの仕方などを受講者は鋭い視線で見学していました。

受講者は、「ドライで貼れるタイプもあ

るのでラッピングの新しい選択肢として」というラッピング・看板系事業者もいれば、「触ったことはあるけど、クリアPPFと違うので角の処理や仕上げのレベルを知りたかった」というPPF事業者など、JCWA講習の中でも業種・技能レベルの幅が広がった印象のカラーPPF講習。実際、募集受付から満杯までもあったという間で、施工者の関心が高いアイテム・講習であることが窺えます。これを受けて協会でも、早速4月に大阪（デコラティブシステム）にて第2回を開催し、今後も継続的に講習を実施していく予定で、WRPとPPFの裾野を一段と広げる新素材の魅力をより広く発信していきます。

[\(講習会の模様はディーリング業界専門メディアCARDE MAGAZINEに掲載中\)](#)



◁△接着層のタイプ含め製品ブランドが多様化するカラーPPF。PVCよりも優れた質感・手触りの製品が多く、手で確認する姿も多かった

▽持ち込まれたNKODAカラーPPFをフル施工した車両。ツートーンデザインで、厚みのあるTPUの付け合わせには工夫・技術が詰め込まれている



△厚みや伸縮性、加熱時の特性など、カラーPPFはPVCとは大きく施工性が異なり、講習ではTPUの扱い方を丁寧にレクチャー

Special Column

大会上位ショップに聞いた。 使っているフィルム、使っている理由。

施工者として技術と同様に常々気になることの1つが材料。価格、品質、使い勝手、知名度など選び方は様々。今回は、協会運営の競技会で優れた成績を残した選手所属ショップ（ラッピング部門・PPF 部門3社ずつの計6社）に、メインで使っているフィルムブランドと、それを選んでいる理由を教えてくださいました。

前提として、全ショップともに挙がっているブランドしか扱わないのではなく、顧客ニーズやシーンに応じて複数ブランドを使い分けています。その上で回答を見てみると、「施工性」への言及は少なく、顧客満足に繋がる「仕上がりに」を重視している傾向が窺えます。逆に言うと、顧客ニーズに適す

るのであれば施工性は二の次で、特性の異なる様々なフィルムに対応できる“技量の幅”があることの裏返しかもしれません。

また、単純な月間の施工台数にも注目。とにかく高い頻度で施工を反復している様子が垣間見え、各回答者ともに経歴年数も決して短くはありませんが、高い技量の裏には、「年数」よりも高い「頻度（反復性）」があるように見受けられます。

施工品質に技量が伴うので、一概に「上位者と同じフィルムを使用した」からといってすぐさま同じ品質には繋がらないかもしれません。ですが、競技会の成績もさることながら、実サービスでも優れた品質を提供する上位ショップたち。その事業スタンスの一端を参考にしてみたいはいかがでしょうか。

G-Meister（ヤマックス）



Q.大会実績

優勝多数（川上裕貴氏）

Q.施工歴／業務量（ショップ）など

10年（上記スタッフ）
ラッピング：約30台／月
内ハーブやフル：約10台
施工人数：6人

Q.メインの使用フィルム

グロス：オラフォル
マット：エイブリディンソン

Q.使用理由

表面のキレイさ。特にグロス（オラカル）は、フィルムが厚く接着面のトラブルが表出しにくい。

Q.カラーPPFへの取り組み

厚みがあり貼り合わせの処理1つとっても塩ビフィルムとは施工法が異なるため、適切な施工法を鋭意模索・研究中。

P-Factory（いのうえ）



Q.大会実績

第1回選手権優勝（井上睦基氏）

Q.施工歴／業務量（ショップ）など

6年（上記スタッフ）
PPF：約30台／月
内フル施工：約5台／施工人数：5人
PPF：8割、WRP：2割

Q.メインの使用フィルム

グロス・マット：レジェンド

Q.使用理由

柔軟性・粘着性が優れ、巻き込みもキレイ・低リスクに仕上がる。マットの質感も◎。艶感重視のFlexiShieldと使い分けている。

Q.カラーPPFへの取り組み

すでに5年近く施工実績あり。黒系の色・部分施工を中心に積極的に活用中。

リンダファクトリー



Q.大会実績

表彰台・入賞多数（林田優希氏）

Q.施工歴／業務量（ショップ）など

18年（上記スタッフ）
ラッピング：約30台／月
内ハーブやフル：約10台
WRP：5割、PPF：5割

Q.メインの使用フィルム

グロス：テックラップ
マット：オラフォル

Q.使用理由

材料のキレイさ。

Q.カラーPPFへの取り組み

ラッピング依頼でも、ルーフやボンネットなど劣化が激しい箇所代替提案するなど、すでに積極的に活用中（NKODAフィルムなど）。材料が多少高くても長くカラーチェンジを楽しんでほしい。

Rocky shore（個人）



Q.大会実績

第2回選手権優勝（磯真仁氏）

Q.施工歴／業務量（個人）など

4年
（PPF7割、WRP2割、デントリペア1割）
PPF：平均約9台／月
（フロントフル7台／フル：2台など）

Q.メインの使用フィルム

グロス・マット：XPEL

Q.使用理由

様々な製品が出てきた中で、プレカットデータとの相性が良い。

Q.カラーPPFへの取り組み

部分施工が多い。パーツ脱着や、巻き込み・捨て貼りの必要性など、施工はPPFよりWRPに近く、利点・リスクの違いを顧客に理解してもらう必要があると思う。

LAPPS（ワイエムジーン）



Q.大会実績

WWM2024準優勝ほか
上位多数（岡部和彦氏）

Q.施工歴／業務量（ショップ）など

26年（上記スタッフ／粘着シート全体）
ラッピング：約20台／月
WRP（フリート含む）：9割、PPF1割

Q.メインの使用フィルム

グロス・マット：3M

Q.使用理由

仕上がり含めて基本品質が良好。伸縮性、ヒートテグなど適切に扱うには相応の技術が必要だが、逆に3M製品を適切に扱えれば他社製フィルムも難なく扱える。

Q.カラーPPFへの取り組み

3Mからも販売予定なので勉強することがたくさんある。

アーネストワークス



Q.大会実績

第3回選手権優勝（田中文太氏）

Q.施工歴／業務量（ショップ）など

10年（上記スタッフ）
PPF：約30台／月
内フル：約10台／施工人数6人
PPF：8割、WRP：2割

Q.メインの使用フィルム

グロス・マット：XPEL

Q.使用理由

プレカットデータの精度の良さ。

Q.カラーPPFへの取り組み

BtoCがメインだが、WRPとPPFの区別が一般的に浸透しておらず、混乱を招く恐れからメニュー化していない。パーツの相性や色など利点がある時に個別提案している。

NEW TOOLS for PRO

[注目のプロツール]

賛助会員 掲載は会員No.順

▶インクジェットプリンター

CJV200 Series



ミマキエンジニアリング

操作経験が少ないオペレーターでも美しく・速く・簡単にプリント成果物を制作することができるプリント&カット対応エゴソルベントインクジェットプリンタ。同社のフラグシッププリンタに搭載される「330エンジン」プリントヘッドをシングル搭載。

▶[公式サイト](#)

▶カラーPPF

PPF290-BLK PPFブラックグロス



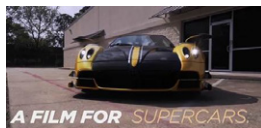
TeckWrap LA

カラーPPFの中でも高い人気の艶あり黒が優れたコストパフォーマンスで登場！
サイズ：60インチ（約1520mm）×15m
ロール販売/1m単位切売
フィルム構造：保護フィルム（50μm）/クリアコート（8μm）/ウレタン層（7.2mil±0.3mil）/粘着層（28μm）/ライナー（75μm）

▶[販売サイト](#)

▶ペイントプロテクションフィルム (PPF)

XPEL ULTIMATE FUSION



XPEL JAPAN

XPEL史上最高のプロテクションフィルム「ULTIMATE FUSION」が遂に登場！従来の耐久性・セルフヒーリング性能に加え、XPELフュージョンコーティング譲りの疎水性性能をプラス。汚れが付きにくく、メンテナンスも簡単に。究極の保護と美観を両立する新時代のPPFです。

▶[公式サイト](#)

▶カラーPPF

FlexiShield コスメティックPPF



FlexiShield JAPAN

ドライ貼りカラーPPFとして21年の登場以降、世界中で多くの施工実績を重ねる本製品。マットブラックやホワイトなど使いやすい新色も続々追加し、現在のラインナップは80色以上！ゼロから学べる技術講習も実施しており、HPではラッピング施工者の受講の模様も掲載中です！

▶[公式サイト](#)

▶ウィンドウプロテクションフィルム (WPF)

Wind Shield Protection Film



スミロン

フロントガラスチッピング防止用プロテクションフィルム。超高透明PETフィルムの採用で視認性を阻害せず、圧倒的な超耐久・耐候性を有するハードコートが長期間ガラスを守ります。熱成型性向上による短時間での施工性と、独自粘着技術の融合による貼替時の剥離性を両立しました。

▶[公式サイト](#)

▶ラッピングフィルム

Lustre Wrapping Film



ニチエ

キャスト塩ビ仕様のメタリックフィルム。今までにないスムーズマットの質感を持ち、上質なメタリック感を演出します。粘着はリボジョナブル・エアフリー糊（白色再剥離糊）を採用しており、エア抜け抜群です。

サイズ：1520mm×16m/ロール、1m単位の切売
カラー：全11色 耐候性：約5年

▶[公式サイト](#)

▶ラッピングフィルム

KPMF



オラフォルジャパン

2025年いよいよ正式にオラフォルジャパンでの取り扱いがスタートします。イギリス、ウェールズ発の魅力的な色彩のラインナップをどうぞ堪能ください。

サイズ：1524mm幅 25m巻
カラー：スタート在庫数 31色

▶[公式サイト](#)

▶ラッピングフィルム

3M™ ラップフィルム シリーズ2080



スリーエムジャパン

フルラップからアクセントラップまで。車両のパーソナライズに特化し開発・進化を遂げてきた 3M™ ラップフィルム シリーズ。2025年2月、新たにハイグロスタイプに4色、サテンタイプの4色の計8色をローンチし、合計93品番をラインアップ。圧倒的な美しさと施工性をご体感ください！

▶[公式サイト](#)

▶大判プリンター

HP Latex R530プリンター



日本HP

新製品の新しいオールインワン「HP Latex R530プリンター」を米国時間3月18日に発表しました。「1台のプリンターで、無限の可能性を」。ロール素材もボード素材も効率的に印刷できます。ラッピングに最適なHP第4世代Latexインク搭載で、日本での発表を鋭意準備中です。

▶[公式サイト](#)

▶ペイントプロテクションフィルム (PPF)

NKODA PPFトレーニングフィルム



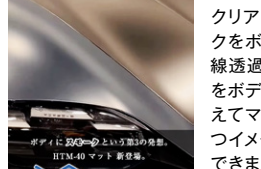
NKD JAPAN

プロショップの施工者育成の悩みを解決すべく新発売！練習用ながら高い施工性で、極限まで抑えた価格帯を実現。さらに25年2月に都内に研修センターをオープンし、練習材の提供だけでなく技術向上の面でもサポートする体制を整備。技能育成にお困りならお気軽にご連絡を！

▶[公式サイト](#)

▶ペイントプロテクションフィルム (PPF)

HTM-40 (マット/グロス)



クリア（グロス/マット）、カラーに続く、「スモークをボディに」というPPF第3の貼り方。可視光線透過率（VLT）40%のヘッドライト用スモークをボディに貼れる60インチでお届け。グロスに加えてマットスモークも新登場し、塗装色を残しつつイメチェンを楽しむ「遊び心あるPPF」を提案できます。購入・お問合せはP-Factoryまで。

LEGEND JAPAN

▶[販売サイト](#)



新会員紹介

2024年8月～25年3月 会員No.順

コメント寄稿

ネモト功芸社

住所： 福島県須賀川市影沼町235-1

事業： ラッピング・PPF施工／看板制作／カスタムトラックペイント…など

看板制作・カスタムトラックペイントの家業を承継する中、新たな事業としてカーラッピング・PPFに着手し、協会理事のラプラスデザインの下で2年程修行。24年に施工場を整え、自社事業とし

て本格始動しました。今はまだ請負施工がメインですが、今後は自社でも集客していくべく、これからも研鑽して参ります。

特にPPFは年々、地元地域でも需要が増えてきています。高級車向けサービスとしてだけでなく、クルマ好きや若い人にも楽しんでもらえるよう広めていきたいので、まずは自分がどんな施工作業にも対応できるよう技術を磨いてきたいと思っています。

コメント寄稿

GARURU Corporation

住所： 三重県亀山市関町木崎1728-1

事業： 各種施工（コーティング／WRP／PPF／カーフィルム／内装張替・補修など）

Web： <https://garurucorporation.com>

コーティング中心のディテールリング施工店ですが、前々からラッピングを、約3年前からはPPFも始め、特にPPFはコーティングとのセットも含め、とてもご依頼が増えています。フィルムや貼り

方など、変化が激しい業界の最新情報を得るべく入会しました。早速4月のカラーPPF講習も受講させていただく予定です。

また、競技会もWWM2024に初めて参加。1回戦敗退でしたが、上位者を見て新しい技術・繋がりを得られました。出場したからこそ身に付く技術があると思い、より上位に勝ち残ることを目指して今後も参戦させていただきたいと考えています。

コメント寄稿

GOOD HAND

住所： 埼玉県草加市新栄3-3-1ビジネスプラザB号室

事業： 各種施工（ラッピング／フリートマーキング／店舗サイン／屋内外サイン）

Web： <https://goodhand.biz>

フリートマーキングや看板系をメインに30年施工しており、2年程前にカーラッピングを本格的に事業化すべく、自社施工場をオープン。ラッピング、PPFの講習を受けたりと、準備は進めていま

すが、まだ本事業は本格化できていない部分もあります。

その中で、講習で知り合った現会員の方に招待いただき、自社事業の活性化に結びつく業界の繋がりを作れればと思い、入会しました。特に一般カーオーナーへの施工経験はまだ少なく、フィルム自体はもとより、パーツ脱着など車両の扱いという点でも、もっと情報を取得して取り組んでいきたいと考えています。

コメント寄稿

GOODWRAP

住所： 埼玉県所沢市和ヶ原1-191-39

事業： ラッピング・PPF施工

ラッピングの施工歴は8年、協会の大会に何度も出場させていただき、WWM2024では5位に残ることができました。ここ2年程はPPFの施工も増え、近い将来の自社ショップ設立に向けて、現

在は他店のサポートをしつつ、日々技術を磨いています。

「世界一のフィルム施工者を目指したい」という想いで、5月のドイツ開催のWWMヨーロッパにも参戦予定。今後も競技への参加を見据え、入会しました。新たなフィルムや技術、車両への対応など最新情報を得るとともに、業界の発展に役立つようであれば私の経験も積極的に提供していきたいと思っています。

コメント寄稿

アールアンドディー（屋号：ハレバル）

住所： 岐阜県羽島郡岐南町若宮地2-197-3

事業： グラフィックデザイン制作／ラッピング施工

Web： <https://cws8086.com>

デザイン事務所を営む傍、趣味が高じて2014年にLAPPSにて講習を受け、3M・4star認定を取得しました。そして24年、本格的にラッピング施工の事業を発足。愛車の色変えは、高級車やカ

スタムカーだけでなく、クルマを足とする人にとってもとても魅力ある遊びで、今後地域を中心に広く発信していく所存です。

ただ事業として施工する以上、貼る技術だけでなく預かり車両の保全や作業損害の補償なども不可欠。JCWA団体保険の活用をはじめ、技術や素材、店舗運営など施工業の様々なことを勉強させていただければと思いますので、よろしくお願いします。

コメント寄稿

Rocky shore

住所： 東京都足立区神明1-12-3

事業： フィルム（PPF・ラッピング）施工／ペイントレスデントリペア

PPF選手権に以前から参戦させていただいていましたが、工場見学の企画を知り、改めて入会いたしました。一貼り手として、また顧客へのサービス説明の点でも、材料を知れる・製造を見ら

れる機会は貴重で、積極的に見学企画に参加したいです。

また、業界の方々との情報交換も図れれば幸いです。材料や貼り方ですが、特に高度化する車両・塗装への対応（パーツ脱着や粘着・剥離性など）に関しては理解を深める必要があると思っており、私自身の経験・知見も必要であれば提供させていただきつつ、協会を通じて勉強させていただけたらと考えております。

#04 | 鈴木敦 PPF 部会長

まだまだ先を追求できる “日本流” PPF施工技術



PPFに触り始めて気づけば20年超…。協会では、苅谷会長にお声がけいただき17年の発足時から理事を務め、WPFやPPFの部会長として講習・講師や競技会・審査員など各運営に携わって参りました。協会内外で継続的にPPFの技術講習をする中、特にここ数年は日本でも市場の著しい成長が見受けられます。そして、参画事業者が増えてきたからこそ、施工品質の重要性も高まってきているように感じています。

こと日本では、飛び石などからの保護機能よりも、貼った後の仕上りのキレイさを細かく見られがち。一方で、カーポート含めた屋外保管も多く、雨などによる美観汚損のリスクが高い…。それに応えるべく国内のPPF施工は、高単価・長時間が1つの傾向になっています。

その中で今年2月、賛助会員XPELの方にご招待いただき、米国での施工店カンファレンスに訪問。そこで開催された競技会では、プレカットの特性を存分に生かし、フィルムへの負荷を抑えつつスピーディに

仕上げる、日本とは異なるPPF施工が繰り広げられていました。前述の日本市場の特性を踏まえると、それをそのまま日本に落とし込むことは難しいにしても、作業時間を短縮（＝収益性を上げる）、フィルム負荷を抑える（＝施工後のトラブルリスクを下げる）という点で、まだまだ海外に学ぶ部分は少なくないと実感した次第です。

施工価格に直結する作業時間、仕上がり美観に影響するゴミ噛や糊ズレの抑制、美観維持に資する撥水性や施工後メンテナンス、アフターコーティングと、長年PPFに触り続けている熟練者含め、まだまだ“日本に適したPPF施工”を探索できる余地は小さくありません。むしろ普及が進んできたからこそ、施工者が適切な収益を得るため、そしてその先にいるカーオーナーが満足するために、施工品質の重要性は高まっています。引き続き当協会・部会では、PPF施工への入り口を担いつつ、今後は実務者の技能底上げにも尽力していく所存です。

#05 | 林田優希 WPF 部会長

講習運営も企画立案も 市場拡大に向けて一致団結で



入会後、PPF部会の補佐を務めた後、昨年のカラーPPF部会新設に伴い、井上徳広理事の後任でWPF部会長に就任しました。WPFだけでなく、各講習はできる限りサポートさせていただいています。

一方で、理事でありながらラッピング・PPFの各競技会では選手として出場させていただいています。選手としての立場上、公平を期するため事前の情報制限があり、大会運営には携われません。その代わりというわけではありませんが、前述の講習運営はもとより、競技会以外の協会活動へもより積極的に参画すべく、日々奔走しております。

その1つが、昨年11月に初めて実現したフィルム工場の見学ツアーです。会長との立案・協議の上、賛助会員であるスミロンご担当者様にご協力いただき実現した企画で、一般の事業者では立ち入ることのできない製造現場の見学、普段聞くことのない材料設計に関する講話の聴講と、貴重で有益な機会を形づくることができました。各フィルム施工

業が盛り上がり、世界中でフィルムブランドが乱立する中、技能面でも顧客への説明責任の面でも、一施工者として材料への理解を深めることは不可欠。今後は海外のメーカーも含め、協会だからできる様々な製造現場の見学を企画していく予定です。

前述のように競技会にも出るなど、私自身が現役の貼り手で、多くの施工者の方々と同様、自身の技術、そしてフィルム施工という仕事に矜持を持っています。一方で、施工というビジネスやサービスの魅力を大きく広げていくことは、自分だけ・自社だけ・仲間内だけでは到底叶いません。一プレイヤーでありながら協会運営に参画させていただいているのもそれが理由で、業界の方々と手を取り合って団結することで、業界の輪を大きくしていけたらと考えています。理事の中でも若輩者ですが、業界の諸先輩方に引き続き勉強させていただきつつ、今後とも業界の発展に少しでも貢献できるよう精進して参ります。

EVENT REPORT

イベントレポート

世界に“日本のレベル”を印象づけた奮闘劇 3位に荻谷会長、4位に林田理事

World Wrap Masters MIDDLE EAST 2025

ドバイ 1月20～22日

1月20～22日、ドバイでWorld Wrap Masters MIDDLE EAST 2025が開催され、日本から2人の施工者が参戦。結果、デザインラボ荻谷伊代表（JCWA会長）が3位、リンダファクトリー林田優希代表（JCWA理事）が4位と見事な成績を収め、日本の高い施工技能を世界に示す格好となりました。

本大会は16人が参加し、全6ラウンド＋クリエティブの勝ち抜き戦。日本でのWWM2024と同様、ラッピングフィルム、プリントメディア、PPFの混合種目で、クリエティブはボウリングピンとチェアの2種目。距離の遠い日本からの出場選手にとっては、ア

ウェーの地で幅広い種目と、技術力に加えてとてもタフさが求められる競技環境でした。

その環境下、決勝4人に残った林田氏は、かつてタイで開催されたHEXIS主催競技会での優勝経験を持つなど、ホーム以外の作業環境へも高い対応力を発揮する実力者。また、WWM含め海外での競技会経験が豊富な荻谷氏は、「優勝に一步届かなかった。それでも、若い世代に体力面が劣る中で、経験でカバーする闘い方をできたのでは」と施工技能の奥深さを示唆しながら大会を振り返ります。

優勝はチェコのヴィット・シメク氏。仕事に加え、業務外にも練習を繰り返したそう、WWMについて「単なる競技会ではなくコミュニティの一員になること」と述べています。当協会でもWWM日本版の誘致をはじめ積極的に海外への挑戦を促しており、5月のドイツでのWWM EUROPE 2025でも多くの日本人選手の出場を支援しています。



賛助会員のメーカーも多数出展！ 競争が激化するプロテクションフィルム

国際オートアフターマーケットEXPO2025

東京ビッグサイト 2月26～28日

2月26～28の3日間、東京ビッグサイトでオートアフタービジネスの展示会「第22回国際オートアフターマーケットEXPO2025」が開催され、賛助会員をはじめとした多くのフィルムメーカーが出展しました。

特に会場内で存在感を放っていたのが、PPFを中心にカラーPPFやWPFも含めたプロテクションフィルム。多くがディテールリング関連エリアに配置されていましたが、デモ実演や実車展示する大規模ブースが多く、従来カーケアの主役だったコーティングより大きな注目を集めていたように見受けられます。

そして、メーカー・製品が増えるに伴い、特にクリアタイプのPPFなどではコモディティ化も進み、メーカー間の差別化ポイントが薄れつつある側面も。これまでアピールポイントとされてきた自己修復機能や撥水性、耐黄変・耐候性などは幅広いメーカーでPRされるようになり、海外製を中心に低廉なフィルムも珍しくなってきました。またフィルム自体ではなくプレカットシステムのPRも増えてきた印象。こうした中で施工者はどのように材料を選ぶのか、製品も施工もPPFビジネスの競争ステージは新たな局面を迎えているようです。



JCWA

JAPAN CAR WRAPPING ASSOCIATION

広報部へのご要望は
下記メールアドレスまでお寄せください。

◎掲載記事へのご意見・ご感想 ◎広告掲載のお問い合わせ etc.

一般社団法人日本カーラッピング協会 広報部
E-mail : info@jcwa.gr.jp

あなたの仕事を楽しくするツールが揃っています カーラッピング用品専門プロショップ



カーラッピング
ペイントプロテクションフィルム
ウインドプロテクションフィルム

施工ツールはもちろん
フィルム資材についても
お気軽にご相談ください！

- 施工ツールカタログ無料配布中！
- 施工業者向け業販登録店様 随時募集中！
- 販売代理店様 随時募集中！

登録希望の業者様はお気軽にお問い合わせくださいませ。

E mail:info-ppf@designlab.co.jp TEL:0586-89-4341

オンラインショップへ
スマホでアクセス！



P-Factory オリジナル プレカットソフトウェア
I CUT PROGRAM

豊富・高精度なデータ数
直感的なユーザビリティ
フリーカット/手頃な月額

期間限定 誰でも割引プラン 実施中！

FlexiShield / LEGEND
のフィルム使用でさらにお得！

**コスパ高い
プレカットデータ**

ゼロスタートもスキルアップも！
競技会優勝ショップの実践的ノウハウ

**PPF / WPF / カラー PPF
技術講習**

材料フィルム支給
宿泊施設 無料付帯

プレカット+技術講習でさらにお得！

3日間 30万円 (税別) ~



P-Factory



ビーファクトリー 事業者



<I CUT
PROGRAM
のご案内

まずはお気軽にご相談ください
※講習は原則、弊社推奨メーカー・フィルムを
使用しますが、ご要望に応じ幅広く対応します

有限会社のうえ
〒243-0307

神奈川県愛甲郡愛川町半原3871-2

TEL.046-211-5121

Wrapmania

TOOL & EQUIPMENT

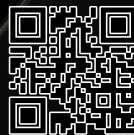
粘着フィルム販売・施工ツール・印刷・製作加工

業販登録者募集中

登録フォームはコチラ 

DFC QUEST

VERY USEFUL
VARIOUS SOCIAL NETWORKS
FOLLOW US ON



- Rinda Factory -

Vinyl Wrap Design

make a car as an artist.



“車”の美容室

CAR BEAUTY SALON

WWW.RINDAFACTORY.COM



@rinda_f

カーラッピング&
プロテクションフィルム専門店
ラプラスデザイン

大胆にイメージチェンジ！
色褪せないインジキシング！
色褪せないインジキシング！
色褪せないインジキシング！

大きな車両も巻き目無し施工可能に！
プリンター新機種導入！

無色透明のポリウレタンフィルム！
姿を見せない車のポリウレタンフィルム！

当店オリジナルデザインの
「LDカーボンメタリックグロス」

Before

After

時代は
「塗る」から「貼る」へ

カーラッピング&プロテクションフィルム

Film Installation



SEARCH ラプラスデザイン GO

TEL 024-926-0978



所在地 福島県郡山市菜根 2-9-8
E mail wrap@laplus.design
営業時間 9:00 ~ 18:00
定休日 火曜日
U R L https://laplus.design

古物商許可 第251080004232号

LINE y.t.lid
Instagram laplus_design
Twitter @LapLusDesign
Facebook Laplus Design



4-star
認定インストーラー



CWI
認定インストーラー

XPEL
認定施工店



ラジオ
福島
静御前通り

内環状線
下田ヒフ科
医院
福島銀行
ヨーク
ベニマル



3M 製フィルム 特約販売代理店

LAPPS はあなたのパートナーです

LAPPS のサービス



商品

3M商品の在庫確保と
社内検品で高品質を
提供。



サポート

累計参加者1000名以上！
定期講習会を開催。
講習会後のフォローと、
技術・ビジネス支援カリ
キュラムの提供。



普及活動

業界の最新情報を収集
し、発信。
業界全体の発展を目指
します。



東京都墨田区
カーラッピングセンター



3M™ラップフィルムシリーズ2080
スコッチガード™ペイントプロテクションフィルム
その他カーラッピングフィルム・備品等取り扱いあり！

法人向けに業販登録受付中！

詳細はコチラ

ご登録で、業販価格での販売、定期的なキャン
ペーン情報や新製品のご案内をお届けします。



株式会社ワイエムジーワン

事業本部・カーラッピングセンター
〒130-0003 墨田区横川1-1-10 すみだパークプレイス II
TEL 03-3635-1266
https://lapps.jp/
https://www.yamaga-net.co.jp/

LAPPS

LUXURY AUTOMOBILE
PROGRESSIVE PLUS STYLE



午前中の注文でその日に発送!!

REAL CARBON WRAPPING FILM

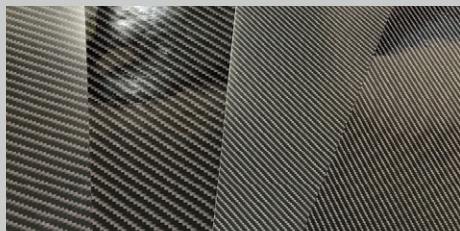
評判の人気商品! プロも認めるリアルな仕上がり!!

独自のデータ技術を駆使し、これまでにないリアル感を追求。

カーボンパターンも2種類用意し、純正カーボンパーツに対応。

デジタルインクジェットメディア AVERY DENNISON MPH1105 スーパーキャストEZRSを使用。

貼り易さもさることながら、他にはないリアルな質感が最高の仕上がりを実現します。



リアルカーボン ラッピングフィルム

左から マット(粗目)、グロス(粗目)、マット(細目)、グロス(細目)

スペック | フィルム幅 / 1480mm×~5m ※切売りOK
フィルム糊 / エアフリータイプ・長期再剥離

業販可!!

〈定価〉1m×1480mm 15,000円

商品の詳細や業販のご相談など、下記までお気軽にお問合せください!!



ご希望の方全員にサンプルを無料配布!! (10×10cm)

← QRコードを読み込み メール作成 をクリック! 必要事項を入力の上メールを送信してください。

G-MEISTER
GRAPHIC DESIGNS & CAR WRAPPING

〒253-0101 神奈川県高座郡寒川町倉見1755-1 TEL. 0466-21-8900 FAX. 0467-37-9210

ヤマックス株式会社 G-meister 事業部

WEBからカンタン注文!!
<http://www.g-meister.net>



JCWA NEWSLETTER

掲載広告 募集中



年3回発行! ※予定



70社超の協会員に配布



単号からご出稿できます
複数号掲載割引もご用意!

料金など詳細は事務局まで
お問い合わせください。

一般社団法人日本カーラッピング協会 事務局
E-mail : info@jcwa.gr.jp
TEL : 03-6277-3291